▼編集後記

▽今号には、二〇二〇年のドイツ現代史学会で行われた歴史教育のシンポジウムが、「特集」として掲載された。これに加え書評も歴史教育の観点からなされている。

歴史研究の場で教育を論じるという点で思い出されるのは、前の勤務先の新潟大学で二〇〇七年に開催した日本西洋史学会の歴史教育のシンポジウムである。所属していた教育人間科学部の社会科教育の宮薗衛先生と児玉康弘先生が、歴史教育を土台に社会科教育を研究しておられたので、学会開催を機会にシンポジウムの組織をお願いしたのであった。

シンポジウムでは、大学史学科の教員、社会科教育の教員、そして高校の教員と、歴史教育に取り組む多彩な人材が報告し、結果として当時の歴史教育に伴う様々な問題群が明確になった。

現在、歴史総合の導入により歴史教育に関わる問題群のうち、研究と学校教育の接合に焦点が合わせられている。この機会に、西洋史研究の研究成果をもとに高校の世界史の授業を実践的に組み立て、その成果を『中等歴史教育内容開発研究』（風間書房、二〇〇五年）としてまとめられた児玉先生に、お話をうかがいたい。だが、先生は二〇一六年に兵庫教育大学在職中に亡くなられた。先生のご著書や論文を、歴史総合を考える手がかりとして改めて読んでみたい。

（北村昌史）

▽学会誌の編集という初めての慣れない作業でしたが、編集委員や執筆者の皆さんの優しさと忍耐強さ、そして的確なご指摘とご協力により、何とかこの一五号を形にすることができました。この場をお借りしてお礼申し上げます。ありがとうございました。

この『ゲシヒテ』が初めて発行されたのは二〇〇八年のことでした。私はその時、修士課程の真っ只中におり、ドイツ「現代史」の専門家の方々による論考や書評で構成された本誌から大いに刺激を受けたのを記憶しております。それから一五年。この号には八編の文章が掲載されておりますが、どれも時勢に適った、学術的価値の高い、素晴らしいものとなっております。現在、一線で活躍されている研究者の方はもちろんのこと、今後、研究者として歩んでいかれるであろう若い方々にも大いに読まれ、良い刺激となることを願ってやみません。

（田中直）

▼編集委員

北村昌史（大阪公立大学）
服部伸（同志社大学）
田野大輔（甲南大学）
中野智世（成城大学）
近藤正基（京都大学）
西田慎（奈良教育大学）

▼編集実務

田中直（立命館大学ほか・非常勤）

ゲシヒテ

第15号

2022年4月30日発行

▼編集発行

ドイツ現代史研究会（代表・大津留厚）
〒602-8580
京都市上京区今出川通烏丸東入
同志社大学文学部　服部伸研究室内

▼印刷

株式会社オーエム